

視察報告書 2-3 町田市議会 無所属会派 吉田つとむ記 2023.07.19
米沢市産業部ブランド戦略課 米沢ブランドについて

町田市議会無所属会派で、山形県米沢市のブランド戦略課を訪ねました。

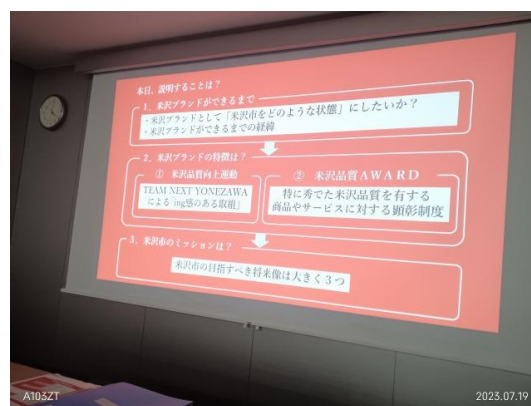
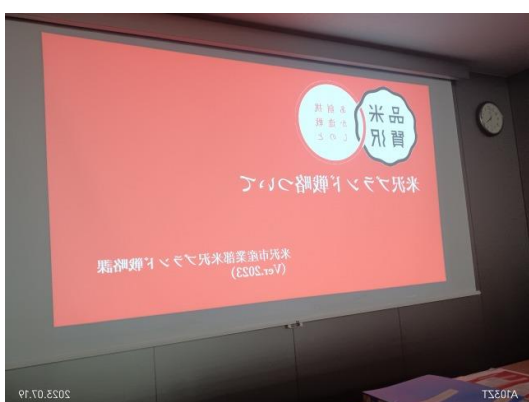
その場では相田克平議長が挨拶していただき、私たちの視察に最後まで立ち会われました。挨拶だけで済ませない議長の真面目な特性とともに、我々の視察先に関心を持たれたからでしょう。と言うのも、レポートを書きかけですが、行政部署だけでなく、特徴ある民間企業を2社も訪問する予定を立てていたことに感心を持たれていたからでしょう。

三井屋工業株式会社 東北事業部
株式会社 おとづき商店



挨拶の相田議長、新井議員が挨拶

・・・以上は、ブログ記事の転載です。・・・



説明では、米沢ブランド戦略課の渡辺課長、大越主任、佐藤主査の参加していただきました。

以下のような言葉をピックアップしたものが説明されました。



「ブランド」の言葉の意味からスタート

生活者と作る側の視点をエルメスのパーキン40で説明

ブランド名がついたバックが、3,399,000円で販売され、購入者が納得する

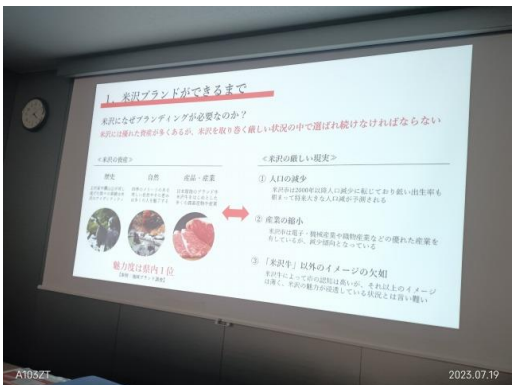
野球ボールが大谷によってホームランボールとなった場合、そのボールの価値が264,000円となる

米沢ブランドが作られる資産

歴史（上杉鷹山）、自然（四季のメリハリ）、産品（米沢牛）

現実には、

人口の減少、産業の縮小、米沢牛以外のイメージの欠如



ブランドコンセプト

鷹山公のDNA『挑戦と創造の』の力で、次の未来をつくる

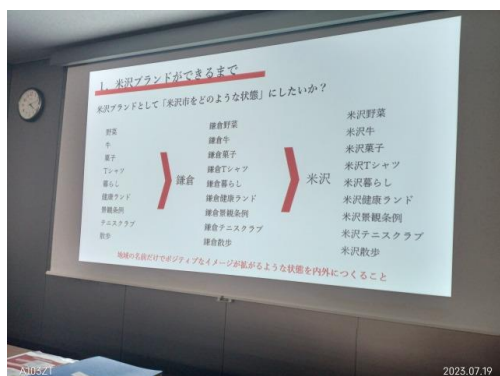
ブランドスローガン

挑戦と創造のあかし

米沢品質

品質向上運動に尽くされている

米沢品質アワードが設定され、商品とサービスに優れたものが顕彰される。第三者機関が決定する。



「米沢品質アワード」にエントリー、そして受賞者の選考、決定となりますが、街の歴史が古いこと、一方で、団地総面積 384ha の米沢市八幡原中核工業団地があり、69 区画に 70 社以上の大手企業を含む工場類が進出し、また、それとは別に、米沢アルカディア・オフィスがあって、そこにはそれぞれにまた別の企業が入居、あるいは予定をしておき、新と旧とが織りなす産業の躍動を予測させるものでした。

<所感>

伝統品、伝統産業の PR について

説明の職員の方が、名刺入れを米沢織のものを持たれていました。

また、議会だよりの記事を見ると、年に1度（第一例会初日）きもの議会が開催されていると紹介があります。

産業振興の観点からは、沖縄の「かりゆしウェア」のように、万事に徹するが一番でしょう。私も、町田市と交流がある沖縄市を訪れた際に購入したことがありますし、普段に着用することがあります。

着物をイベントごとに着用する、あるいは他に出向いた時に着用する、それくらいの大胆さが求められているのではないのでしょうか。

私自身、伝統産業の博多人形と言う工芸品の営業職をしていました。業界が斜陽化する直前に、務めていた会社が閉鎖し、それを機に、全く別の分野の営業職に移りました。

後述する和装コートのおとづき商店の取り組みには感心するものが在りました。



企業誘致について

米沢市は団地総面積 384ha の工場団地を開発していました。当然、誘致企業であり、全部で 69 の区画に大小の企業が進出していました。

全国で少なからず工場団地は、その開発が上手くいかず、多くの空き地を生み出していますが、この米沢八幡原中核工場団地の場合は、より良い集約が図られているように見えました。

視察企業である、三井屋工業株式会社の場合、他の自治体を含めて、数か所の立地を検討されていますが、米沢市の条件提示が良かったのはもちろんでしょうが、話を詰めるまでの誠意がお互いに実を結んだものでしょう。その三井屋工業は、トヨタ自動車東日本株式会社（宮城県黒川郡大衡村）に部品納入する企業であり、その距離が 100 km 以上も離れているが、その移動に高速道路のインターチェンジ間を通せばそのデメリットを回避できるという目算があつての進出でしょう。他を見ると、自動車系事業者の進出は見られません。



工業用水や電力供給が十分に図られた計画であったことが幸いしたと思います。*果たして、今後の電力値上げがどのように作用するのか、それらについてはどこでも同じ条件であり、当方の視察時間からして検討の対象外としました。

他に、もっと規模が小さい（33.3ha）米沢オフィス・アルカディアと言う団地がありました。この米沢八幡原中核工場団地ほどの入居企業の手当ては進んでいませんが、その大半は入居企業があり、根本的に解決が出来ないものと想定しなくて済みそうな気がします。

総じて、米沢市の工場誘致はかなり進展が良いものと推量しました。

特異な才能や取り組みが産業発展の基軸

米沢市の企業視察の一つは、株式会社 おとづき商店がありました。和装コートの製造を得意とする会社で、今時、和装のファッション業で頑張れる人材があるのかと感心しました。

さらに、事業を拡充し、自社工場を新築しており、今の流行の自動化ではなく、細かな手作業を要する「多能工」を前提とするものでした。企業内で「和裁士」を育成し、東京の文化服装学院（ドレメ＝杉野と並び称される文化）出身の若手も入っていました。



みしん工房の責任者の方から、説明を受けているところです。



その仕事ですが、その説明から僧職があるかぎり、和装の需要はゼロにはなる

ことは無いものでしょう。さらに、茶道・華道が続く限り、着物の中で和装が完全に無くなることはありません、現在は需要の最低量になっている可能性もあります。海外との交流がこれまでで最も多くなり、今後は外国人に向かってその需要が拡大するかも知れません。

要は、日本文化の特異性を他に伝え、関心を持たせることができるかどうかが肝要なことでしょう。

新規産業分野について



上杉鷹山の精神は今も受け継がれている

有機 EL の開発が、山形大学と聞きました。それもその工学部は米沢市にあり、各種の照明に利用されています。山形県は山形大学をメインに県内を有機 EL の一大拠点にしたい感じでした。

モニター画面からブラウン管が一扫され、その後、プラズマディスプレイが開発されるやそれが普及するかと思いきや、一挙に液晶に変わりました。その液晶と競合するのが有機 EL であり、どこまで有機 EL が進出するのか、山形県にとっては、県の基幹産業になり得るのかどうかという分岐点でしょうが、米沢市自身も、この有機 ELこそこれからの社会を照らす灯りだとその拡大を推進していくのでしょ